

和歌山病院での実習を終えて



食野 真美

今回、二日間かけて和歌山病院で実習させていただきました。和歌山病院には肺がん患者さんが多くを占める大学病院と違って結核などの感染症患者さんも多く、新鮮な気持ちで実習に臨みました。南方先生のセミナーはとてもエネルギッシュで、今まで暗記に頼っていた勉強の仕方を見直す必要があるのだと痛感しました。君たちは暗記力は普通なのだから得意の分析力で考えるべきだ、という南方先生の言葉はずっと忘れないだろうと思います。ブロンコ体操は体を使って覚えることで、何度覚えても忘れてしまっていた肺の分画を理解することができました。また異常な部分にばかり気を取られて何から見たらよいかわからなくなっていた X 線の読み方も教えていただき、画像に対する苦手意識を払拭することができたように思います。駿田先生には結核のセミナーをしていただいたり、病棟に連れて行っていただきました。これまで必要以上に危険な病気だと認識してしまっていた結核という病気が注意すれば感染を防げる病気であることや、今でも結核に苦しむ患者さんがたくさんいることがわかりました。病棟では煙の出る装置を使って空気の流れを実際に見せてもらったり、初めて N95 マスクをつけたりと座学だけでは習得できない学びの多い時間でした。人工呼吸器のセミナーや自発呼吸を助ける装置を使ったセミナーでは実際に人工呼吸器をつけさせていただき、患者さんの身になって考えることができました。この二日間で自分の頭を使って考えながら学ぶことの大切さを教えていただきました。受け身ではなく積極的に考えることで、南方先生たちのような論理に基づいた説明ができるような医者になりたいと思いました。最後になりましたが、臨床でお忙しい中わたしたちのためにたくさんの時間を割いてくださった南方病院長や駿田副院長はじめこの実習に関わったすべての方々に感謝したいと思います。ありがとうございました。